個人の市場価値の向上と生涯成長を支える

NEWS LETTER

株式会社人財アジア 定期ニュースレター

☐ 岡村の最近の注目ニュース　☐ ビジネス予備校近況リポート　☐ B-EAT 会活動報告　☐ What's up?

vol.46

2026 年 07 月

「立ち話」の効用

2026/07

今年の１月から、
EAT オンラインサロンと称して、
月１回４５分、卒業生同士が雑談する場を始めた。

多いときでも十数名、普段は数名ほどだろうか。EAT ビジネス予備校だけでも数百名の卒業生がいることを考えれば、こぢんまりとした集いだ。それでも毎回少しずつ違った顔ぶれが登場する。今の私にとって、毎月の時間の確保には苦労を要するが、「最近どうしているかな」と思い浮かべていた方に思いがけず会えるのは、本当にうれしい。

東京クラス二期卒業生の稲葉さんが手を挙げ、ブロックチェーンについて語ってくださった回はとても勉強になった。稲葉さんのお人柄と仕事への情熱が相まって、日頃接点がなく知識のない参加者にも、とても分かりやすい話だったのではないか。フランスと米国に続けて留学した趙さんの近況報告も興味深かった。「EAT での考える訓練は本当にタフだった」というコメントには、小躍りしたくなるほどうれしくなった。また、通学当時は対人関係に悩み葛藤していたメンバーが、課長となり部下を持ったとの報告に胸が熱くなった。内面の成長に伴い顔つきまで変わるものだと、あらためて感じた。

最近は、EAT 講師であり私の師匠の麻植さんが、毎回雑談の口火を切ってくださる。今月は山歩きの話から、色々考えさせられた。

膝ほどの深さしかない浅瀬でも、実はかなり危険で、ロープを渡して足を取られないよう慎重に進む必要があるという。川面は穏やかでも、水の流れは想像以上に強い。ロープは進む方向を定める助けにはなるが、もし転倒した人がいたら、ロープを力いっぱい引いて流れに逆らわせるよりも、そのまま体を浮かせた方が助かることが多いらしい。
善意の悪意。反射的なリアクションは、逆の結果を招くことがある。大事なのは冷静かつ論理的判断だ。

そんな話を聞いているうちに、冒頭で麻植さんが話していた AI 企業の競争を思い出した。傍目には順風満帆に見える業界だが、川の流れは強い。各社がガチの勝負を続けており、この先足を滑らせて淘汰される企業が出てきても不思議ではないだろう。安易にロープを投げて引き上げようとすることが、かえって社会全体を混乱に巻き込むこともある。昨今の、頭の良さだけでなく、心の賢さも備えた次世代のリーダーたちが、事前に調和の取れた冷静な判断をしてくれることを期待したい。

ほんの四十五分。そんな脱線話を楽しみながら、あとは Zoom の別室に移ってもらい、残りたい人は時間の許す限り語り合い、予定のある人は自由に退出していく。

皆さんは、こんな緩い運営のサロンをどう思われるだろうか。当初、この会を始めたとき、私自身にも迷いがあった。目的を定め、参加するメリットを明確にすべきではないか、という意見もあった。

しかし、目的を定めて一直線に答えを求めるのであれば、AI と協働すればよい時代になった。けれども、自分とは一見関係がないように思える話を何となく耳にし、雑談を重ねる中で、思考に厚みや広がりが生まれることがある。AI は、目的が明確な問いには驚くほど速く正確に答えてくれる。しかし、偶然の会話から生まれる気づきや、人との何気ないやり取りの中で思考が育まれていく体験は、まだ AI には置き換えられない。

最近、職場でも近所でもめっきり見かけなくなった「立ち話」の効用を、AI 時代だからこそ私たちは大切にしていきたい。

今回、多忙のなか寄稿してくれたのは、本文中にも登場した趙さんである。鋭い感受性と論理性には、私自身もいつも多くを学ばせてもらっている。

（補足）
ＥＡＴオンラインサロン　毎月必ず第四金曜日 2015−2100。同じＺＯＯＭリンク (*)。次回は８月２８日
(*)Zoom ミーティングに参加する　https://us06web.zoom.us/j/82672860454?pwd=oEfH5ekMjlzwGgpxlNXNga97GQkkP8.1
ミーティング ID: 826 7286 0454　パスコード : 836739

注) この隔月ニュースの内容をさらに充実させ、発信していきたいです。メールアドレス等の変更は総務企画までお知らせくださいね！　（EAT 代表　岡村 進）

「考える葦」としてのマネジメント

――AI 時代に 人・仕組み・技術をつなぐ力

株式会社 NTT データ
第三金融事業部
保険 IT サービス事業部
趙　陽　氏

人間は考える葦である。二年間の MBA 留学、フランスでの一年間とアメリカでの一年間を終えて、私はこの言葉を以前より深く実感するようになった。AI が瞬時に答えを提示する時代だからこそ、人間に求められるのは、答えを早く出す力だけではない。何を問うべきか、なぜ問うのか、その答えを現実の中でどう判断するのかという「考える力」である。

AI Tool や LLM は、文章を書き、資料を整理し、専門家のような回答を返してくれる。しかし、AI が扱うのは、多くの場合、すでに言語化され、データ化され、ネット上に存在している知識である。LLM は世界を理解しているというより、膨大な情報の中から、確率的に自然な言葉を選んでいるにすぎない。

だからこそ重要なのは、AI の答えを受け取ることではなく、その前提を疑う力である。この市場は本当に存在するのか。顧客は本当にその課題を抱えているのか。メンバーはなぜ賛成しながら動かないのか。こうした問いには、現場の空気、沈黙、違和感、人間の不安や欲望が含まれており、AI だけでは捉えきれない。

MBA の教室で学んだのも、この「問い」を立てる力だった。優れたマネージャーとは、最初に正解を出す人ではない。複雑な問題を分解し、仮説を立て、ディベートを通じて前提を更新し、より本質的な問いへと導く人である。

AI 時代のマネージャーの役割も変わる。AI が情報処理や定型業務を担うようになれば、人間に残る価値は、判断力、構想力、問いを立てる力になる。そしてそれらは、細切れにされた時間からは生まれない。これからの管理者に求められるのは、「時間管理」ではなく「時間投資」である。時間を削減すべきコストではなく、未来の価値を生む経営資源として捉え、人が深く考え、学び、構想する時間を生み出すことである。

したがって、AI 導入の核心は、単なる技術導入ではない。重要なのは、「人・Structure・技術」の三つを同時に設計することである。技術とは、AI Tool や LLM、データ基盤である。Structure とは、会議、意思決定、ドキュメント文化、権限移譲、評価制度である。そして人とは、不安、抵抗感、心理的安全性、学ぶ意欲、AI を使って何を実現したいのかという意思である。AI だけを入れても、Structure が古いままであれば、組織は変わらない。人が考える時間を守り、Structure を整え、技術をその中に位置づけること。それこそが、AI 時代のマネジメントの役割である。

フランスでは、人間が人間らしくあるとは何かを考えさせられた。多様な価値観や生活のリズムが共存し、休むこと、考えること、生活を楽しむことが創造性を支えている。一方、アメリカでは、金融、教育、イノベーションの圧倒的な力強さと同時に、格差や分断も見えた。高速で走り続けるマシンのような社会だからこそ、その内部には大きなひずみも蓄積されている。

その中で、日本企業が発揮すべき強みも見えてきた。日本の強さは、最速の意思決定や大胆な個人主義にあるのではない。現場を丁寧に見る力、人の気持ちを察する繊細さ、品質への責任感、長期的な信頼関係、そして現実的に物事を進める力にある。ただし、それらの強みが古い組織構造の中に閉じ込められると、過剰な調整、過剰品質、遅い意思決定、部分最適へと変わってしまう。必要なのは、強みを捨てることではなく、それを AI 時代の組織能力へと再設計することである。

AI は答えを速くする。しかし、何を問うべきか、何を大切にすべきか、どのような組織や社会をつくりたいのかは、人間が考え続けなければならない。AI 時代の管理職に求められるのは、チームをより忙しくする力ではない。人が考える時間を守り、人・Structure・技術をつなぎ、未来の可能性を増やす力である。

What's up?

一木　新平
Shinpei Ichiki

EAT ビジネス予備校
福岡クラス（9 期生）
西部ガステクノソリューション株式会社

2025 年 4 月に EAT を修了して、もう 1 年がたつのかとびっくりします。
ただ、普段の仕事で困難に直面した際は、岡村先生や EAT の人たちはどう考えるだろうと思うことがあり、今も「身近な存在」として EAT は私の心にいるような気がします。
去年は、EAT などでの学びを勉強する「一木塾」なるものをグループで開催し、「知の共有」を試みました。これを機に次の EAT 受講者が出てきたら大変嬉しいと思います。

EAT 株式会社人財アジア
〒100-0005 東京都 千代田区丸の内 1-8-3 丸の内トラストタワー本館 20 階
［TEL］03-6300-6460　［Mail］info@eat-star.asia

特別寄稿および What's up?　に掲載して下さる方を募集しています。ご希望の方は事務局までお問合わせのほど、お願い致します。